

超硬耐摩耗工具・金型のトップシェア 富士ダイスの事業と成長戦略



その感動のウラに、富士ダイス。

2026年1月

本日覚えていただきたい3つのポイント

1. 世界の基幹産業を支えるニッチトップな存在
2. ニッチトップを支える
「開発力」×「技術力」×「営業力」
3. 成長への道筋と株主還元策

01

世界の基幹産業を支えるニッチトップな存在

会社概要（2026年1月現在）

商号	富士ダイス株式会社
所在地	東京都大田区下丸子二丁目17番10号
資本金	164百万円
代表者	代表取締役社長 春田 善和
創業	1949年6月
上場証券取引所	東京証券取引所 プライム市場（証券コード：6167 [業種：機械]） 2015年6月東証二部に上場、2017年4月東証一部に市場変更
事業目的	超硬合金製の耐摩耗工具・金型の製造販売
連結子会社	新和ダイス株式会社 富士シャフト株式会社 FUJILLOY (THAILAND) CO., LTD. 富士模具貿易（上海）有限公司 PT. FUJILLOY INDONESIA（休眠中） FUJILLOY INDIA PRIVATE LIMITED FUJILLOY MALAYSIA SDN. BHD.
従業員数	1,090名（2025年3月期末時点、連結）



当社の特長

超硬耐摩耗工具市場で**トップシェア**

国内超硬耐摩耗工具業界では当社は長期に亘り、トップシェアを堅持
多品種少量の高付加価値製品の販売が主で、販売価格は安定して推移

業界シェア
30%以上

長期的成長を担う高い**素材開発力×加工技術力**

粉末冶金技術を活かし、市場ニーズに応える新材料の開発力
新鋭設備研究と加工方法の最適化による匠の技と最新テクノロジーの融合

コア技術
・粉末冶金技術
・超精密加工技術

開発力-技術力-営業力が競争力の源泉

お客さまの個別ニーズをカスタマイズできる直販体制
幅広い業種との安定かつ多くのお客さまとの取引実績
設計から原料粉末の調製、焼結、機械加工、製品検査までの一貫生産体制

取引社数
約3,000社
(グループ連結)

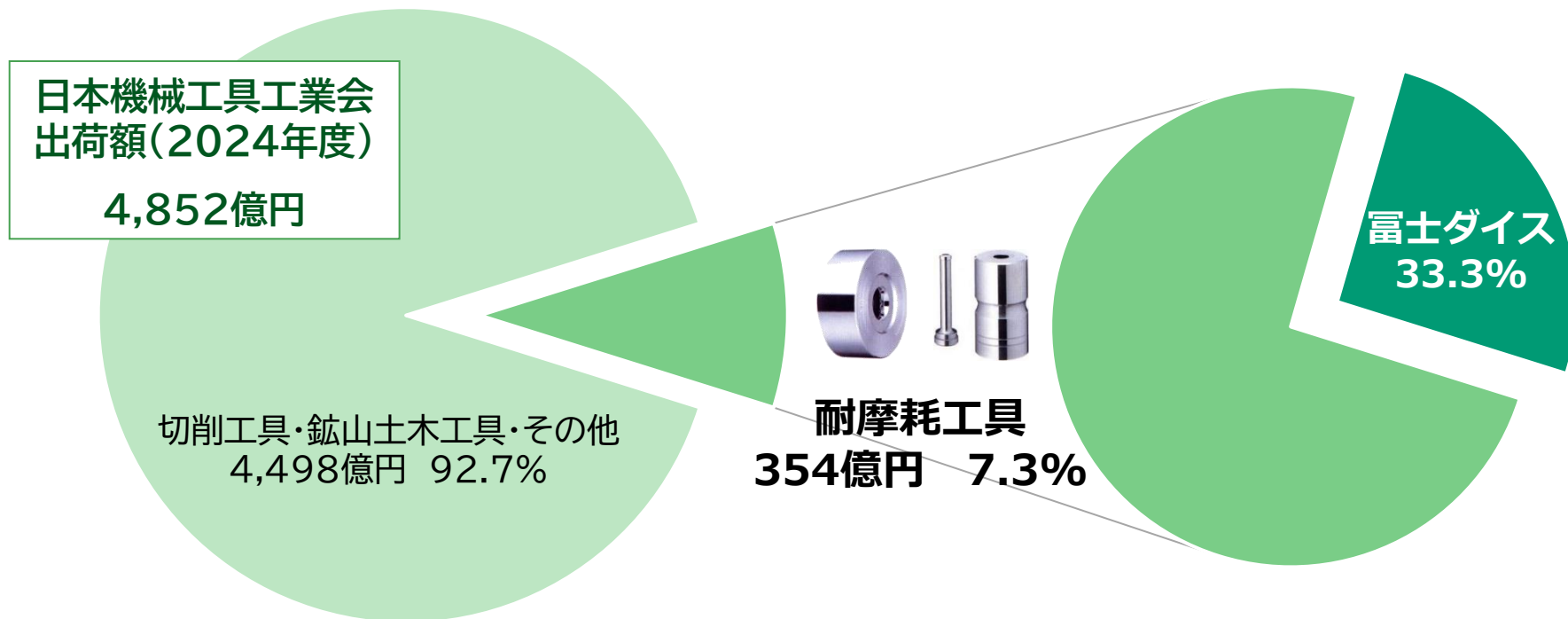
財務基盤：黒字経営を継続し、**高い自己資本比率**を維持

ネットキャッシュ 7,089百万円
フリーキャッシュフロー 668百万円

自己資本比率
79.6%
(2025年9月末時点)

(2025年9月末・百万円未満 切り捨て)

超硬工具の国内市場規模（日本機械工具工業会調べ）

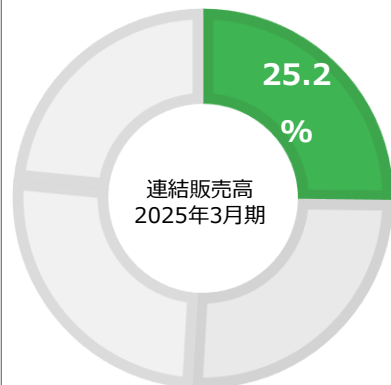


耐摩耗工具において、長年に亘ってトップシェアを堅持
当社の超硬工具の売上 117億円 (119億円/2023年度)

事業内容 製品区分

■ 超硬合金製を中心とした工具・金型（耐摩耗工具）製造に特化

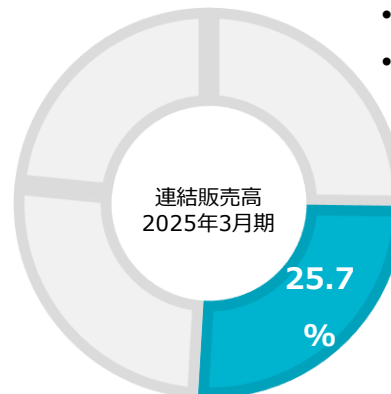
超硬製工具類



- ・ ダイス、プラグ
- ・ 溝付きプラグ
- ・ 熱間圧延ロール
- ・ 超高压発生用工具 等



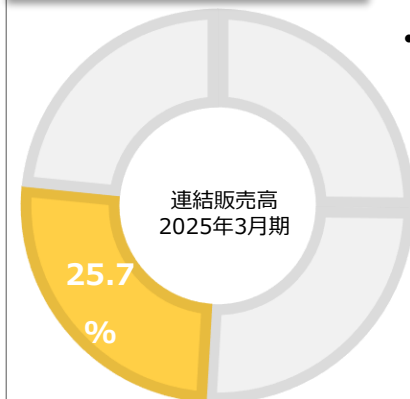
超硬製金型類



- ・ 自動車部品製造用
- ・ 製缶用
- ・ 電池関連用 等



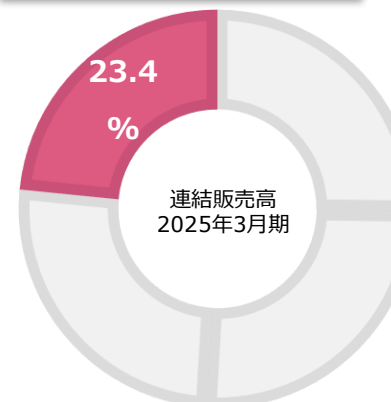
その他の超硬製品



- ・ 超硬合金素材
- ・ 半導体製造装置用部品 等



超硬以外



- ・ 鋼製品
- ・ KF2製品
- ・ セラミックス製品
- ・ ダイヤモンド研削砥石
- ・ FHR製品
- ・ 銅タン
- ・ NFメタル
- ・ 引抜鋼管 等



ものづくりを支える富士ダイスの製品

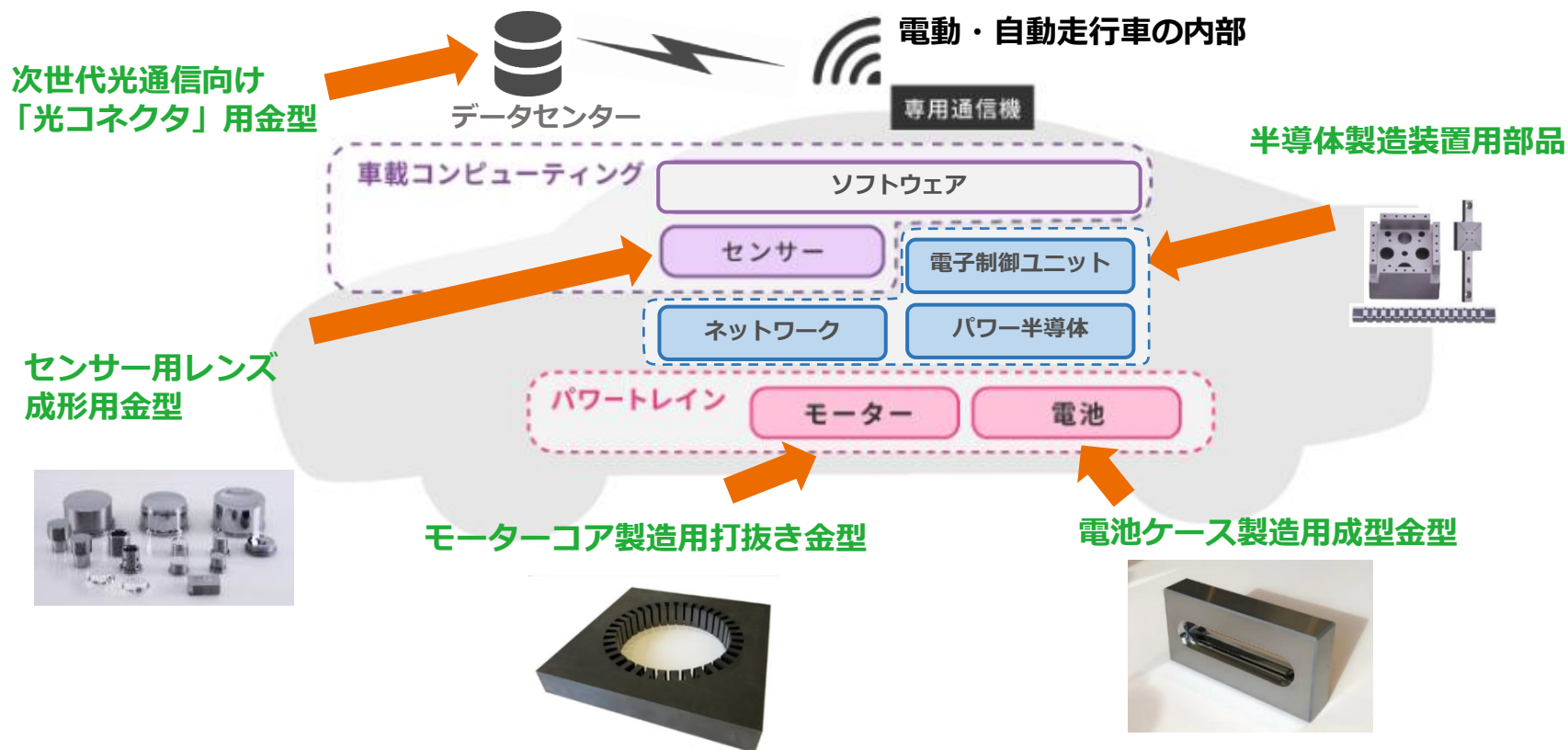


上記以外にも、富士ダイスの製品は、鉄道架線・電線などのインフラ設備、人工ダイヤモンドの製造や新素材の開発など、様々なシーンでもものづくりを支えている

成長分野と富士ダイスの関係

次世代自動車・半導体・光通信

自動運転向けセンサー用光学部品、次世代光通信分野、半導体製造装置分野に、
当社の工具・金型・素材が貢献



電動・自動走行車の内部 図の引用元：国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）のホームページ

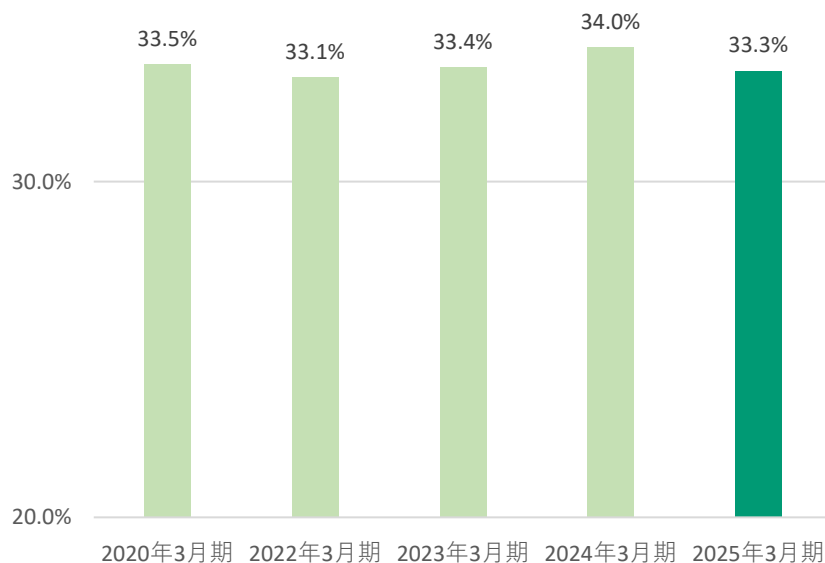
02

ニッチトップを支える
「開発力」×「技術力」×「営業力」

耐摩耗工具専門国内トップメーカー

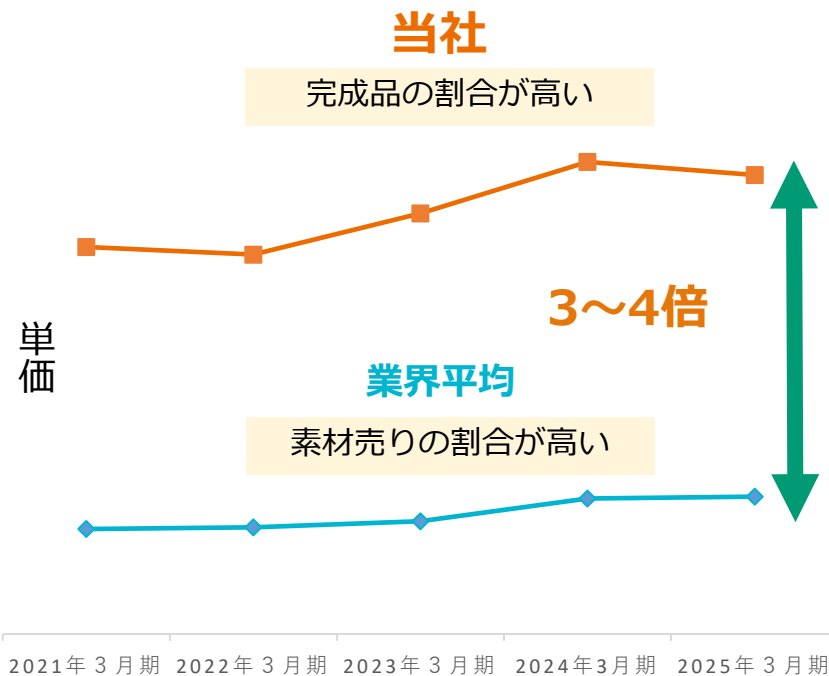
国内超硬耐摩耗工具業界で当社は**長期に亘り、トップシェア（30%超）**を堅持
少量多品種の**高付加価値製品**の販売が主で、販売価格は**安定して推移**

超硬耐摩耗工具・国内出荷額シェアの推移



※2021年3月期は新型コロナウイルスの影響が大きいため除外

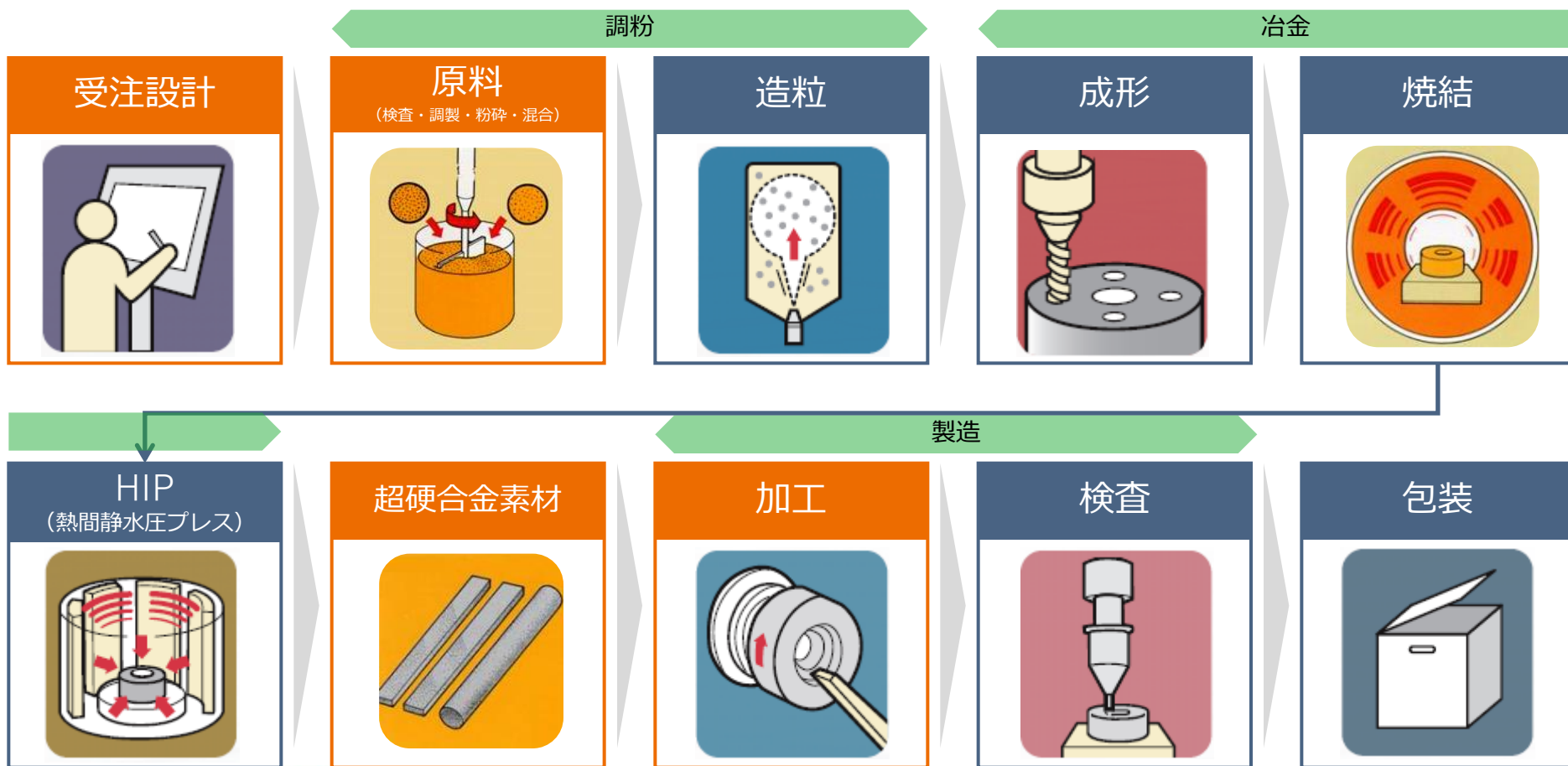
製品の平均単価の推移



出所：日本機械工具工業会

一貫生産体制により様々なオーダーに対応

- 設計から原料粉末の調製、焼結、機械加工、製品検査まで一貫した受注生産体制
- 2つのコア技術、高度な粉末冶金技術と超精密加工技術により様々なオーダーに対し柔軟に対応が可能（多品種・少量生産）



高い評価を受ける素材開発力・加工技術力

2023年 第66回十大新製品賞 において 「モノづくり賞」を受賞

- 高精度ガラス成形用金型素材【フジロイTR05】が、日刊工業新聞社主催の「2023年 第66回十大新製品賞」において「モノづくり賞」を受賞。



「2024年度 (第8回) 精密工学会 ものづくり賞」において 「最優秀賞」を受賞

- 【フジロイ TR05】の開発および超精密加工技術の確立が評価され、公益社団法人精密工学会主催の「2024年度 (第8回) 精密工学会ものづくり賞」において「最優秀賞」を受賞。



高精度ガラス成形用金型素材【フジロイTR05】の開発は

- 日本機械工具工業会主催の「2023年度日本機械工具工業会賞」における最高栄誉の「技術功績大賞」
- 一般社団法人 粉体粉末冶金協会主催の「2024年度協会賞」における新技術・新製品賞（優秀賞）も受賞しており、合計で4つの賞を受賞

成長分野に向けた開発～次世代光通信～

次世代光通信向け「光ファイバアレイ」用金型

超精密加工技術を活かし、データセンターなどの次世代光通信で
使用される「光ファイバアレイ」用金型へ展開

市場投入フェーズ

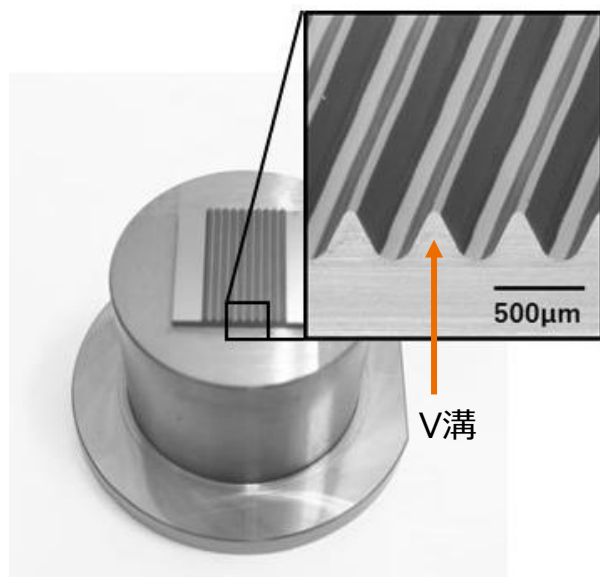
開発開始

試作品納品

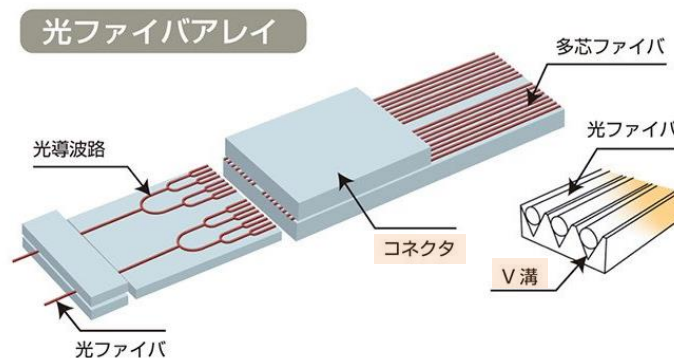
- 大容量高速通信に欠かせない極細の光ファイバをつなげる「光コネクタ」用金型を
最先端の超精密加工技術により寸法精度0.1 μ m以下※1で製作

※1 寸法精度0.1 μ m (0.0001mm) とは？

髪の毛の1000分の1のズレも許されないレベルの加工精
度



「光コネクタ」用金型



- ◆ 光ファイバと光ファイバの“つなぎ目”にあたる「光コネクタ」の表面には「V溝」とよばれる細い溝が数十本刻まれている。その溝のなかにケーブル内から枝分かれした光ファイバが1本ずつはまるようになってる
- ◆ コネクタで接続された光ファイバの軸がわずかにずれるだけで、データ伝送量に損失が生じるため、0.1 μ mの誤差も許されない高精度が求められる

光ファイバアレイ 図の引用元：国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）のホームページ

成長分野に向けた開発～次世代エネルギー～

グリーン水素製造装置向け触媒電極 (PME)

需要の拡大が予想されるグリーン水素製造装置向け触媒電極 (PME※) を開発

※Powder Metallurgy Electrode (粉末冶金電極)

- 水の電気分解による水素製造の際、必要な消費電力を従来比20%削減。
- 触媒はカルシウム、銅及び鉄の酸化物（貴金属フリー）。

2025年“超”モノづくり部品大賞
「生活・社会課題ソリューション
関連部品賞」を受賞



FUJILLOY

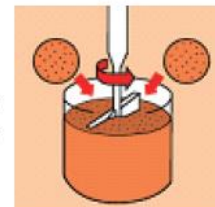
市場投入フェーズ

開発開始

客先評価中



超高压合成技術
(触媒開発)

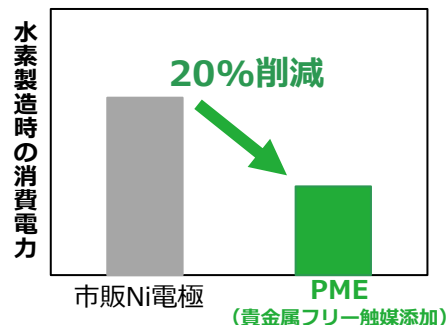


粉末冶金技術
(電極化)



高性能触媒電極
(PME)

PMEの使用で、水素製造に
必要な消費電力を削減



03

成長への道筋と株主還元

中期経営計画2026（2025年3月期-2027年3月期）：重要施策

変化に対応できる企業体質への転換

①経営基盤の強化

サステナビリティ経営とDX化を軸に組織力を高め、経営判断を迅速化

②生産性向上・業務効率化

各部門における自動化・省力化、DX化等による業務効率化を推進

③海外事業の飛躍

海外子会社と日本からの直接輸出の両輪で海外売上拡大を図る
アジア地域でのシェア拡大に加え、北米/インドにおける市場開拓を促進

④脱炭素・循環型社会への貢献

脱炭素・循環型社会の形成に貢献する製品を積極的に開発・市場投入

⑤新規事業の確立

100年企業を目指し、新規事業の専門組織を立ち上げ、新事業シーズの事業化を加速

既存事業領域

新規事業領域

利益率向上

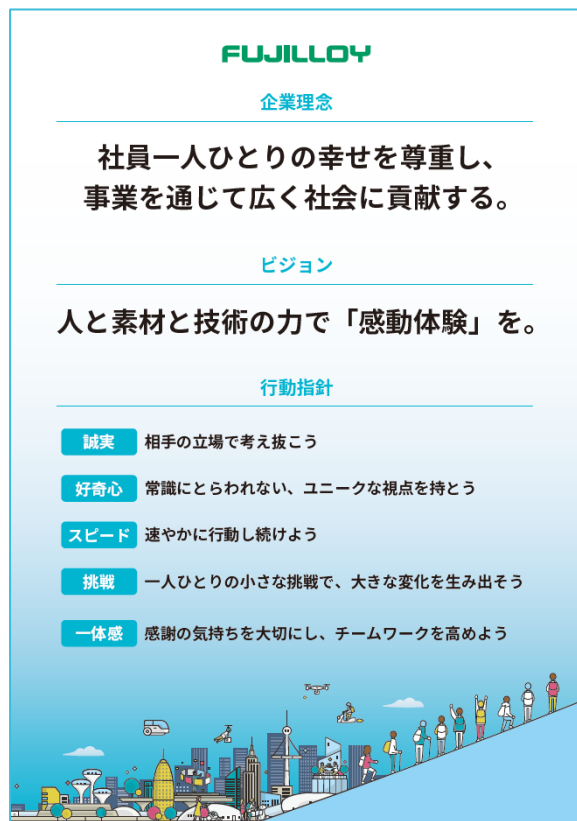
売上拡大

国内事業は成長の基盤（安定的に成長）、成長を牽引するのは海外事業
将来の成長基盤の育成として新事業の実現という方向性

重要施策の進捗と 第3四半期以降の取り組み ①経営基盤の強化

進捗

2025年7月1日に、100年企業を目指して、グループ企業理念を見直し
ビジョンを新たに策定



超硬耐摩耗工具メーカー から

世の中に「感動体験」を増やす企業 へ



[コーポレートサイト「企業理念」より](#)

取り組み

DXを活用した営業活動の見える化やワークフローの導入により、業務効率化を推進

重要施策の進捗と

第3四半期以降の取り組み ②生産性向上・業務効率化

進捗

【自動化】今年度予定している自動化投資（1億6000万円）の全案件に着手

熊本製造所

- 部品どりを最適化するCAD・CAMの自動ネスティングを7月より本格稼働中 原材料の使用効率UP
- ラップ加工作業に自動化ロボットを8月よりテスト導入、11月より本格稼働 省人化を推進

秦野工場

- プラグ製作工程に自動ろう付装置を導入、12月より本格稼働予定 品質の安定化・生産性向上

岡山製造所

- 自動床洗浄ロボットを5月より導入、3Q以降他拠点に横展開を計画 間接時間を削減・省人化を推進

【生産性向上・業務効率化】

生産工程や焼結条件の見直し、治工具の改良などにより、需要が高まっているバインダーレス合金の生産量を短期間で倍増

取り組み

さらなる自動化により省力・省人化を推進

郡山製造所

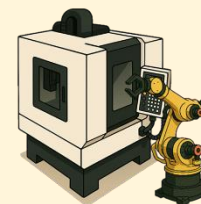
- 冶金工程の粉末成形プレス機にロボットアームを追加（12月導入、テスト稼働予定）
焼結用カーボンケースへの充填作業を自動化

熊本製造所

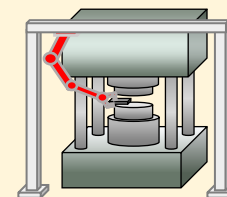
- 冶金工程の成形加工機に産業用ロボットを追加導入（12月導入予定）

秦野工場

- 研削加工作業に自動化ロボットを導入（2026年1月導入予定）



成形加工機 産業用ロボット



重要施策の進捗と 第3四半期以降の取り組み

③ 海外事業の飛躍

中国

富士模具：販売拠点

進捗

ローカル企業向けに光学機器関連の販売を拡大、売り上げに貢献
半導体関連の素材販売が好調

取り組み

深圳での展示会出展などにより、さらなる知名度向上でNEV関連メーカーへの拡販を強化

アセアン

FUJILLOY THAILAND：生産/販売拠点

FUJILLOY INDONESIA：生産/販売拠点

FUJILLOY MALAYSIA
：販売拠点

進捗

タイ・インドネシアは、メインの輸送機器が芳しくない中で、輸送機器以外の製品群の拡販を強化
マレーシアは、半導体関連が低調

取り組み

他業種・日系企業以外への拡販を推進
タイ 2025年11月に展示会出展
インドネシア 2025年12月に展示会出展

北米

進捗

売上拡大を目指し、新規マーケットの獲得のため、市場調査を継続

取り組み

自前主義を脱却し、新しいビジネスモデルを検討中

インド

進捗

事業再開プロジェクトを発足
市場調査と現地拡販活動を強化

取り組み

2026年1月に展示会出展
2026年中の事業再開を目指す

2027年3月期目標

海外売上比率：25%以上

2026年3月期第2Q

海外売上比率：21.7%

(2025年3月期：19.5%より2.2ポイントUP)

中国での知名度向上・新規顧客の獲得と販売拡大

現地子会社「富士模具貿易（上海）有限公司」の拠点 上海・東莞での知名度向上と新規顧客開拓を目指し、展示会に出展

- 6月4日～7日に上海市で開催された「第24回中国国際金型技術と設備展示会」に出展
- 9月10日～9月12日に営業拠点がある東莞市に隣接する深圳市で開催された「第26回中国国際オプトエレクトロニクス博覧会（CIOE 2025）」に出展、ガラス成形用金型などを展示



【「第26回中国国際オプトエレクトロニクス博覧会（CIOE 2025）」弊社ブース】

- 11月5日～8日に深圳市で開催された「第26回DMP国際金型及び金属加工博覧会」に出展

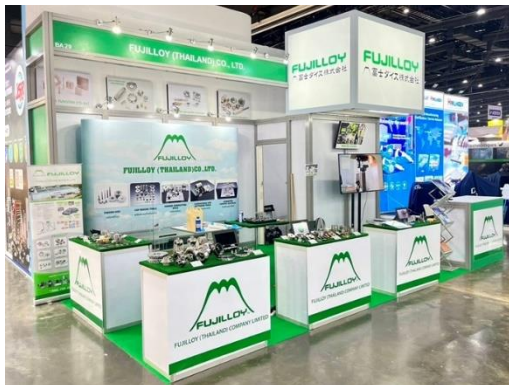


アセアンの知名度向上・新規顧客の獲得と販売拡大

現地子会社 があるタイ・インドネシア
事業再開を目指すインドでの
知名度向上と新規顧客開拓を目指し、展示会に出展

FUJILLOY THAILAND

- 11月19日～22日にバンコクで開催された「METALEX 2025」に出展



【「METALEX 2025」弊社ブース】



FUJILLOY INDONESIA

- 7月16日～19日にスラバヤで開催された「Manufacturing Surabaya 2025」に出展
- 12月3日～6日にジャカルタで開催される「Manufacturing Indonesia 2025」に出展予定

インド

- 2026年1月21日～25日にベンガルールで開催される「IMTEX FORMING 2026 – International Forming Technology Exhibition -」に出展予定

FUJILLOY

脱炭素・循環型社会の形成に貢献する製品を積極的に開発・市場投入

次世代自動車



二次電池用工具・金型



モーターコア用
金型材種

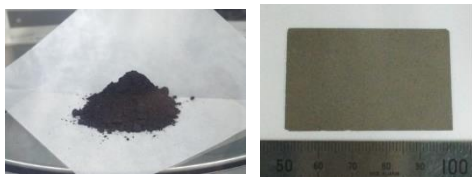
JIMTOF2024 (2024年11月)
モーターコア金型向け新材種
【フジロイ VG51】を発表

リサイクル



新規事業開発で
事業化を検討中

次世代エネルギー



CO2還元用触媒 水素発生用触媒・電極
など

粉末冶金 技術

超硬合金

W合金

Cu-W合金

セラミックス

高熱膨張
合金

触媒

特殊循環用
摺動材

省W・Co
合金

JIMTOF2024 (2024年11月)
新製品「グリーン水素向け電極」を発表

省資源



省タングステン・コバルト合金

重要施策の進捗と 第3四半期以降の取り組み ④脱炭素・循環型社会への貢献

新合金【サステロイ STN30】を販売開始

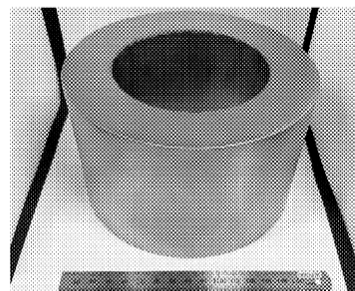
- 鋼程度の比重、超硬合金と同等・鋼の4倍の耐摩耗性を実現し、地政学的リスクが懸念されるレアメタルの使用量を大幅削減した新合金【サステロイ STN30】を開発
- 2023年3月に【サステロイ ST60】を開発・販売したが、【サステロイ STN30】は材料設計を根本から見直し、より耐摩耗性を向上

市場投入フェーズ

開発開始

本格販売

耐摩耗性、鋼の4倍



開発した新合金「サステロイ STN30」を初展示する。

新合金「サステロイ STN30」は、超硬合金と同等の耐摩耗性を実現し、地政学的リスクを軽減する。また、鋼程度の比重を持つため、加工性が向上し、コスト削減が期待される。

また、超硬合金の約1/3の重量を持つため、加工時の切削力や振動が軽減され、加工精度が向上する。さらに、鋼程度の比重を持つため、加工後の冷却や排屑が容易で、加工効率が高まる。

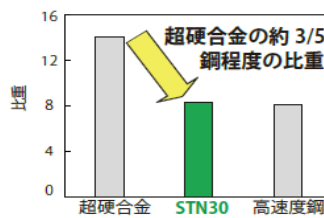
富士ダイスは、超硬合金と同等の耐摩耗性を持つ新合金を開発した。この合金は、鋼程度の比重を持ちながら、超硬合金の約4倍の耐摩耗性を実現している。また、鋼程度の比重を持つため、加工時の切削力や振動が軽減され、加工精度が向上する。さらに、鋼程度の比重を持つため、加工後の冷却や排屑が容易で、加工効率が高まる。

富士ダイス、新合金開発

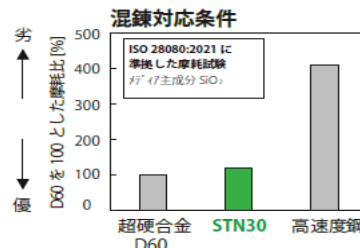
富士ダイスは、超硬合金と同等の耐摩耗性を持つ新合金を開発した。この合金は、鋼程度の比重を持ちながら、超硬合金の約4倍の耐摩耗性を実現している。また、鋼程度の比重を持つため、加工時の切削力や振動が軽減され、加工精度が向上する。さらに、鋼程度の比重を持つため、加工後の冷却や排屑が容易で、加工効率が高まる。

新合金【サステロイ STN30】の特長

①軽量

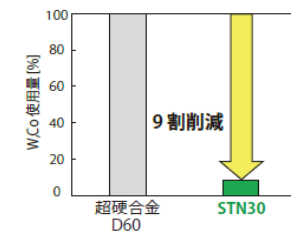


②高耐摩耗性



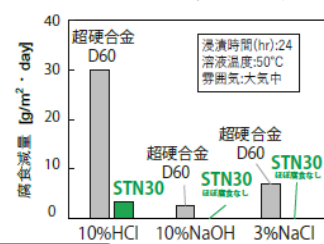
③省資源

タングステン・コバルト使用量を9割削減



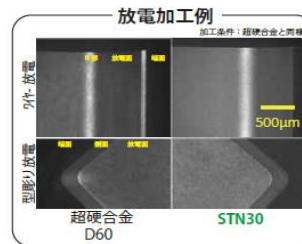
④高耐食性

一般超硬合金より腐食しにくい



⑤優れた加工性

研削加工性は超硬合金と同等、放電加工が可能



⑥磁性を有するため 磁力選別が可能

用途例

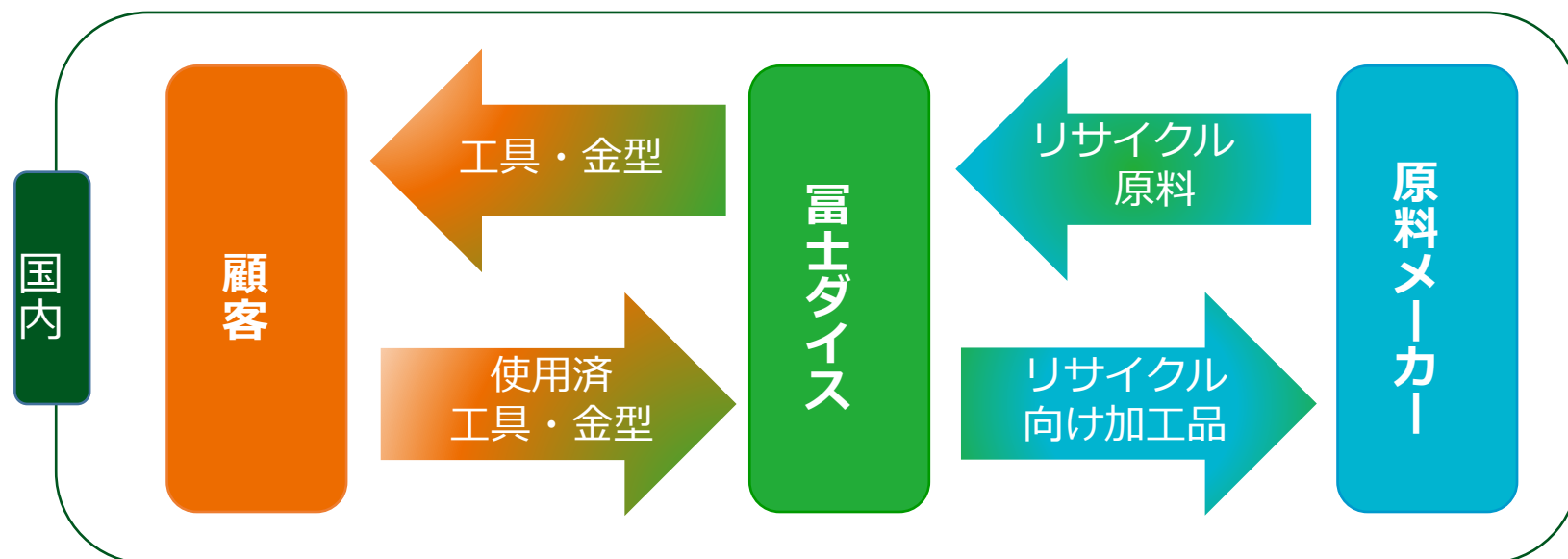
軽量でありながら、超硬合金と同等の耐摩耗性を実現。耐摩耗性が求められる一方で重量のある超硬合金の使用は難しい分野（回転工具や混練工具など）での利用が見込まれる。

【2025年10月27日付「日刊工業新聞」】

FUJILLOY

超硬耐摩耗工具・金型のリサイクル

- スクラップ回収に必要な各種申請手続きを完了、モデル地域を定め、10月より試験的な回収を開始
ビジネスモデルを構築後、対象地域を拡大予定
- 顧客網を活用し、超硬耐摩耗工具・金型の国内循環型リサイクルの実現を目指す
- 限りあるレアメタルを有効活用し、原料調達リスクを低減



取り組み

- 新規事業の早期実現に向けたM & A、業務提携の実施を検討中

2026年3月期 業績見通し

- 売上高は新拠点の東莞を足掛かりにした中国での販売拡大や前期に引き続き好調な金型工具向けの素材に加え、輸送機器の需要増を見込む。
- 営業利益は人件費や原材料費の増加はあるが、価格改定による収益性の向上により対前年比22.9%増の6.0億円を見込む。

営業利益
6.0億円
(前期比22.9%増)

(単位：百万円)	2025年3月期 実績	2026年3月期 2Q実績	2026年3月期 業績予想	期末における 前期増減	期末における 前期増減率
売上高	16,595	8,417	17,670	1,075	6.5%
営業利益	488	322	600	112	22.9%
(営業利益率)	(2.9%)	(3.8%)	(3.3%)	(0.4)	
経常利益	603	306	700	97	16.1%
(経常利益率)	(3.6%)	(3.6%)	(3.9%)	(0.3)	
親会社株主に帰属する 中間／当期純利益	426	196	460	34	8.0%
1株当たり 中間／当期純利益	21.42円	9.88円	23.12円	1.70円	-
1株当たり配当額	40.0円	-	40.0円	0.0円	-
DOE	3.8%	-	4.0%	0.1	-

【2026年3月期 利益予想の前提条件】

(百万円未満 切り捨て)

①APT(パラタングステン酸アンモニウム) 価格：375ドル/10kg (2025年9月実績600ドル/10kg)

②為替：145円/米ドル

中期経営計画2026 連結数値目標

【2027年3月期における連結数値目標】

連結売上高
200億円

営業利益
20億円

経常利益率
10.5%
(経常利益 21億円)

ROE
7.0%

	2025年3月期 実績	2026年3月期 業績予想	2027年3月期 目標
売上高	165億円	176億円	200億円
営業利益	4.8億円	6.0億円	20.0億円
経常利益	6.0億円	7.0億円	21.0億円
経常利益率	3.6%	3.9%	10.5%
当期純利益	4.2億円	4.6億円	15.0億円
ROE	2.1%	2.2%	7.0%

(2027年3月期の目標値は、米国関税政策による影響などが不透明なため変更なし)

2026年3月期 株主還元・配当

自己株式の取得を2025年8月12日に公表・実施

資本効率の向上と株主への利益還元および将来の機動的な資本政策を可能とするため、業績・資本の状況、成長投資の機会、株価を含む市場・業界環境の変化を考慮しながら機動的に実施。

自己株式取得の内容

(1) 取得した株式の種類	当社普通株式
(2) 取得した株式の総数	350,400株 (発行済株式総数(自己株式を除く)に対する割合1.8%※)
(3) 株式の取得価額の総額	299,984,000円
(4) 取得期間	2025年8月18日～2025年12月4日(約定ベース)
(5) 取得方法	東京証券取引所における市場買付

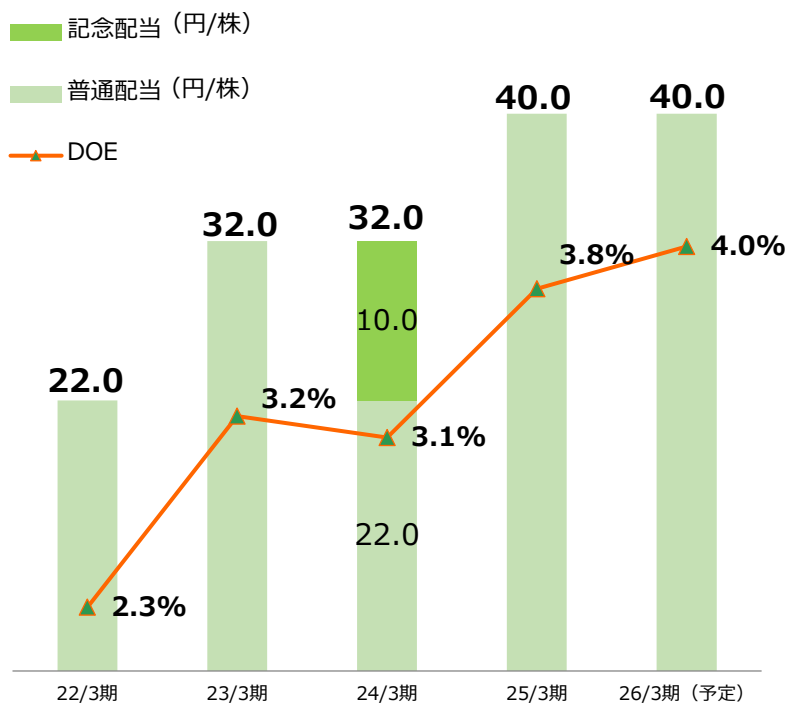
※2025年8月12日開示「自己株式取得に係る事項の決定に関するお知らせ」記載の発行済株式総数(自己株式を除く)を元に計算

2026年3月期 株主還元・配当

2026年3月期は1株当たり40円を計画

年間配当金
40円

- 2027年3月期までの中期経営計画期間中は、配当の基準を従来の配当性向から株主資本配当率（DOE）に変更するとともにDOEの目標値を4%目途に変更
- 2026年3月期の配当は前期の配当と同額の一株当たり40円を計画



株価の動き

【2025年3月31日時点】

株価	754円
配当利回り	5.31%
時価総額	150億円
PBR	約0.72倍



2025年8月12日に自己株式の取得を公表

【2026年1月20日時点】

株価	1,159円
配当利回り	3.45%
時価総額	231億円
PBR	約1.16倍※

株価
54%
アップ

※2026年3月期第2四半期の純資産額で計算

当社コーポレートサイト「投資家情報」ページのご紹介

当社コーポレートサイト「投資家情報」ページに業績ハイライトや開示資料を掲載



当社コーポレートサイト

<https://www.fujidie.co.jp/>



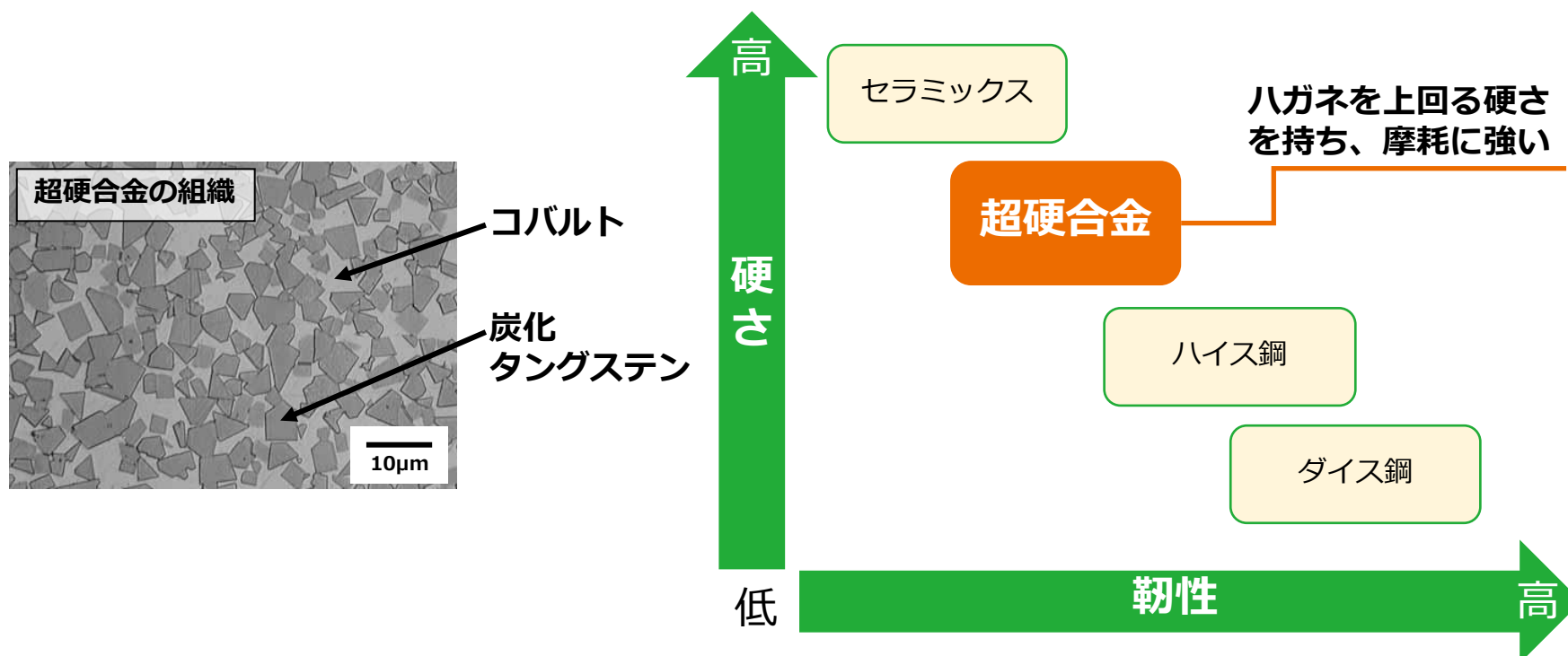
ぜひ、ご高覧ください

04

APPENDIX

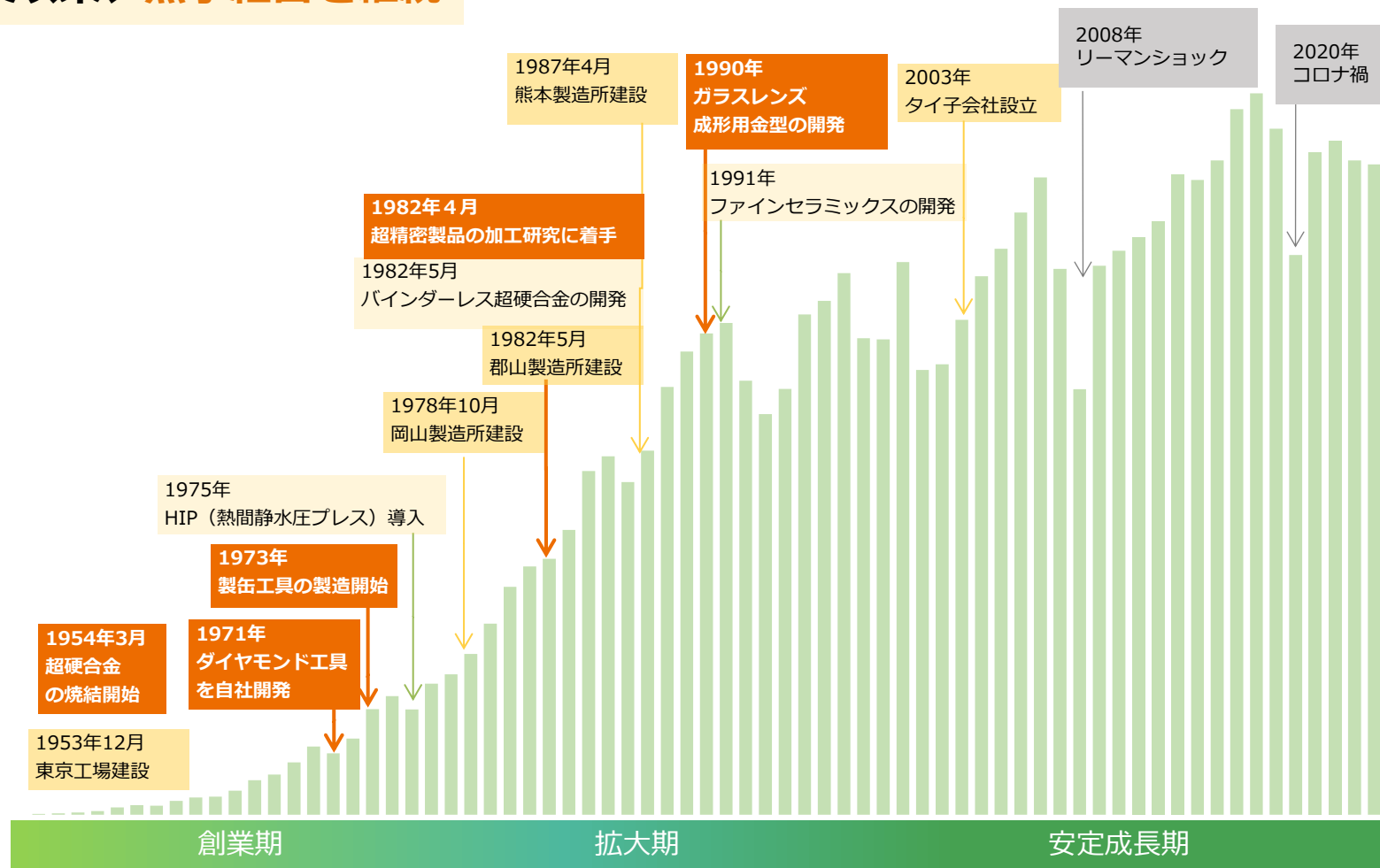
超硬合金とは

- 炭化タングステンなどの**硬質炭化物**とコバルトなどの**金属**を組み合わせた**金属材料**
- ステンレスや鋼鉄を凌ぐ**硬さ**を誇り、**圧縮強さ**、**耐摩耗性**に優れる
- **変形しにくく**、高い精度が求められる**金型**や**工具の材料**として適している
- 金属の粉末を型に入れ圧縮して成型し、融点より低い温度で長時間焼いて固める「**粉末冶金法**」で製造される



主な沿革と売上高推移

創業以来、黒字経営を継続

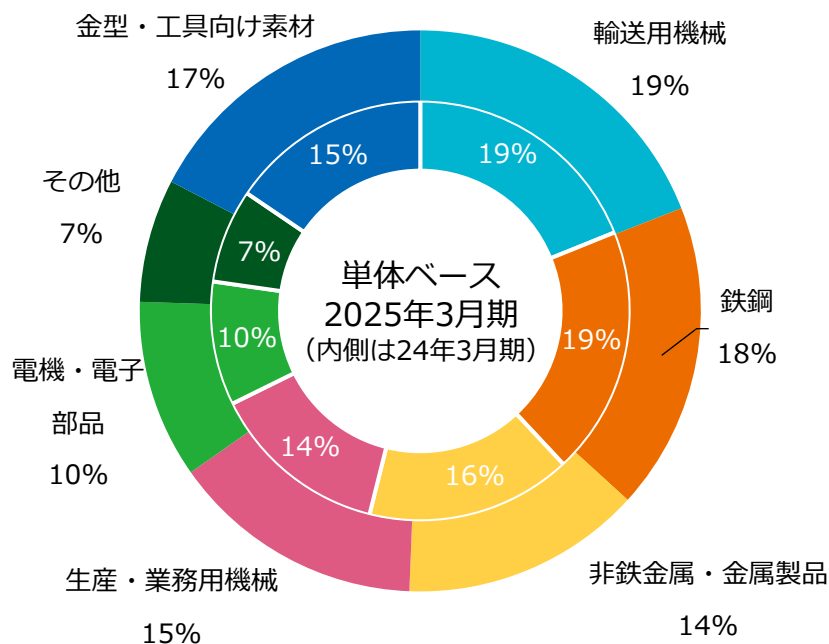


(注) 2012年度以降は連結売上高

受注生産・直販体制、取引先は約3千社に上る

少量多品種の顧客毎の**カスタムメイド**の受注生産・直接販売を行う
顧客との強固なネットワークにより、取引社数は**約3千社**、業種も幅広い
特定の**業界動向**に影響されない**安定性**が強み

【顧客産業分類区分売上構成(%)】



【営業・生産拠点（2025年3月末時点）】

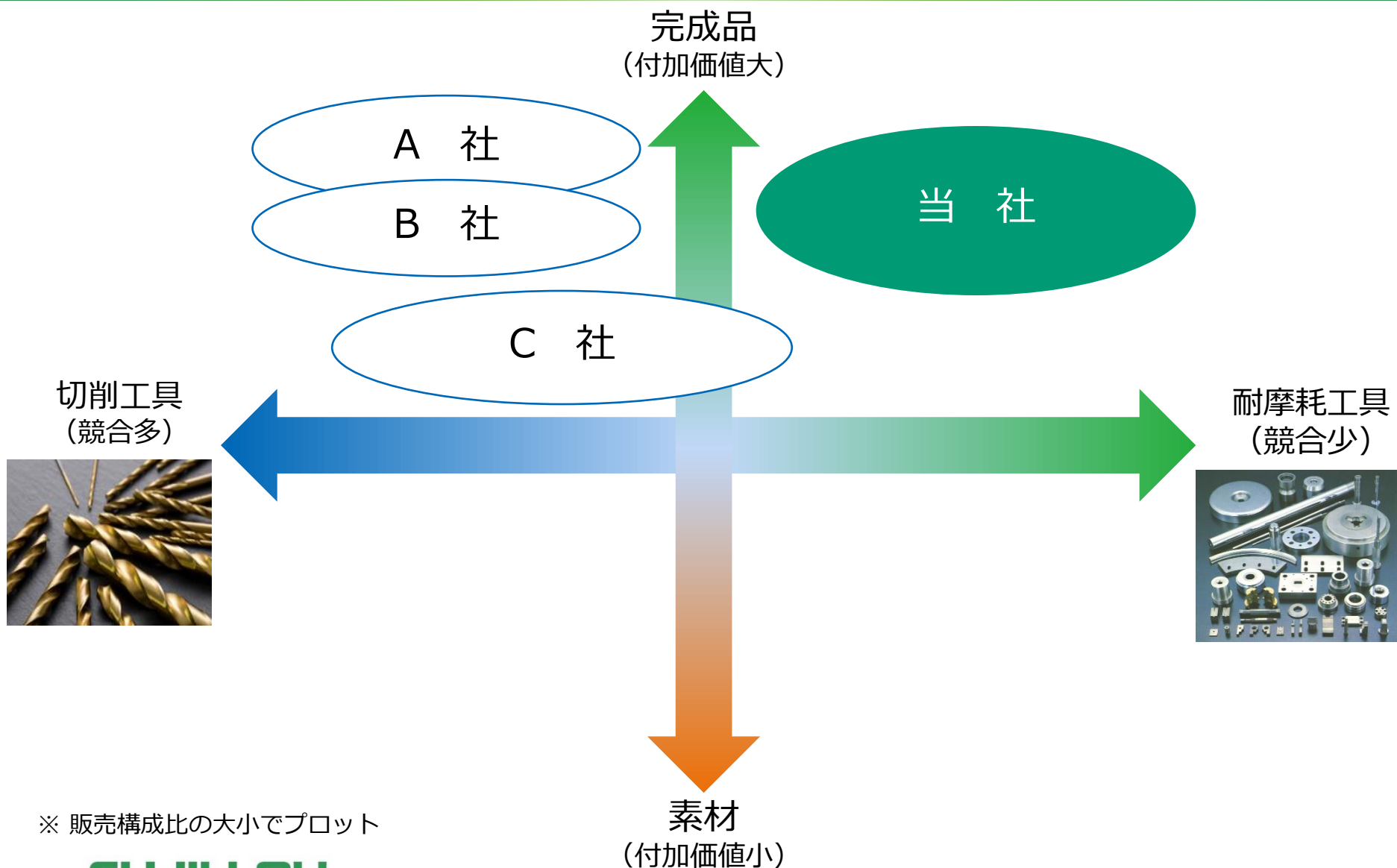
【国内】

●生産・営業拠点	5ヶ所
●生産拠点	2ヶ所
●営業拠点	5ヶ所

【海外】

●生産・営業拠点	2ヶ国
タイ・インドネシア	
●営業拠点	3ヶ国
中国・マレーシア・インド（休眠中）	

工具業界 ポジショニングマップ（上場企業）



代表的な製品例

引抜・押出・圧延加工をする工具

輸送用機械、建築材料やインフラ関連の設備等へ使用

当社製品



ダイス・プラグ



ロール

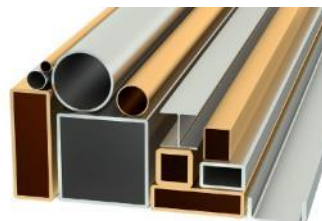
成形部材



パイプ



線材



異形管

最終製品例



エアコンなどの家電



飛行機などの輸送機器



鉄道架線・電線など
インフラ設備

代表的な製品例

飲料缶・一般食缶を製造する工具・金型

アルコール飲料や清涼飲料等の飲料缶を作る金型

光学素子を製造する金型

一眼レフ・通信用・監視カメラ・自動運転用カメラセンサーのレンズを生産する金型

当社製品



製缶工具

最終製品例



飲料缶・一般食缶

当社製品



ガラスレンズ成形用金型

最終製品例



監視カメラ



カメラレンズ



自動運転用カメラセンサー

代表的な製品例

鍛造用工具・金型

二輪車や四輪車、各種製造機械等の部品を作る金型

高圧工具

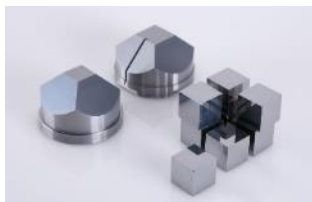
人工ダイヤモンドの製造、新たな素材の開発、地球の内部環境研究に用いる工具

当社製品



鍛造金型

当社製品



高圧工具

最終製品例



自動車・各種機械用部品

最終製品例



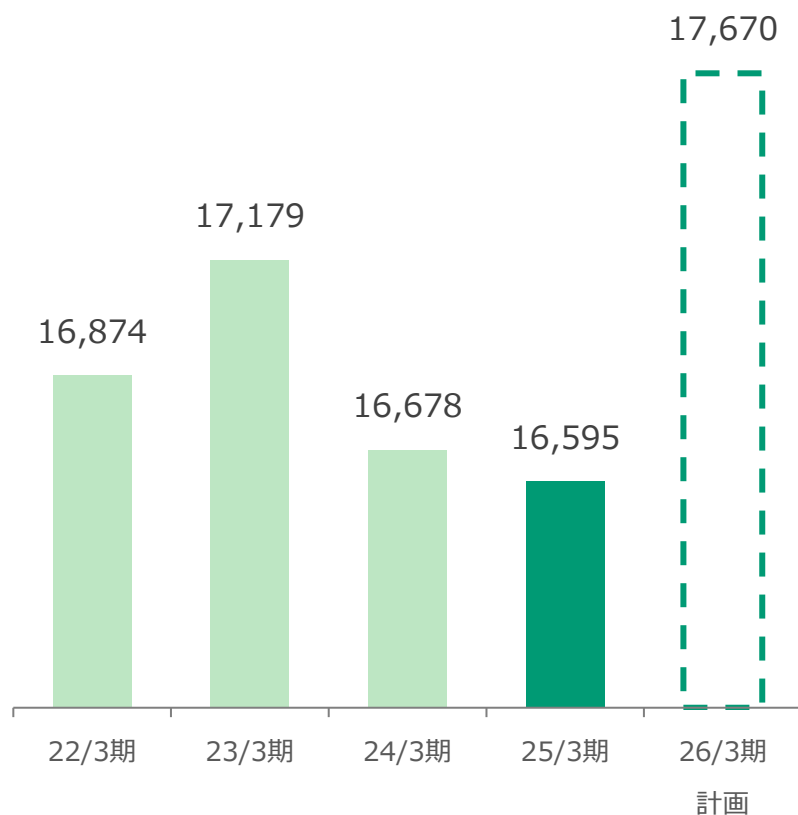
人工ダイヤモンド・
新素材開発

地球物理学研究

業績の推移 1/3

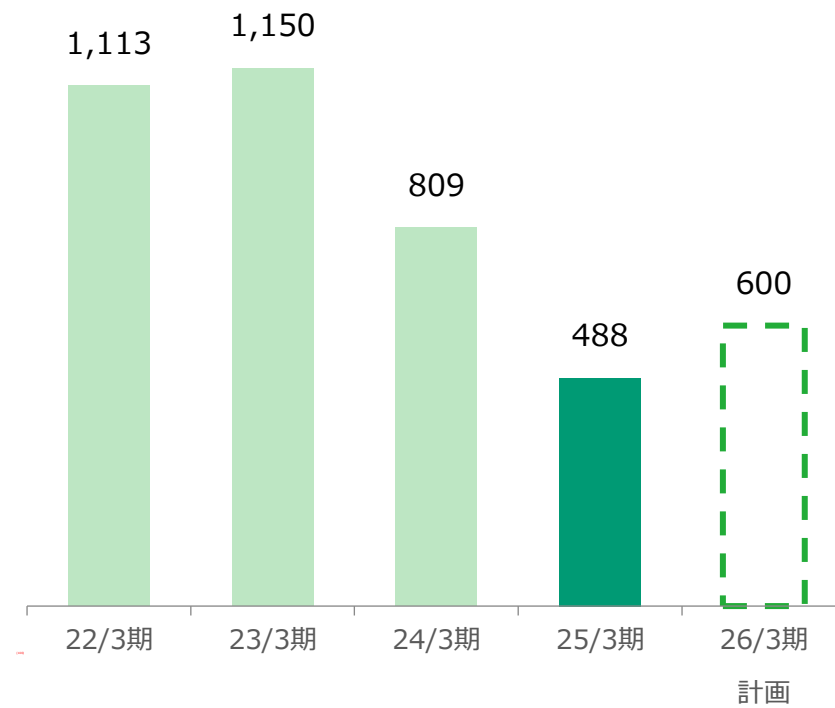
売上高

(百万円)



営業利益

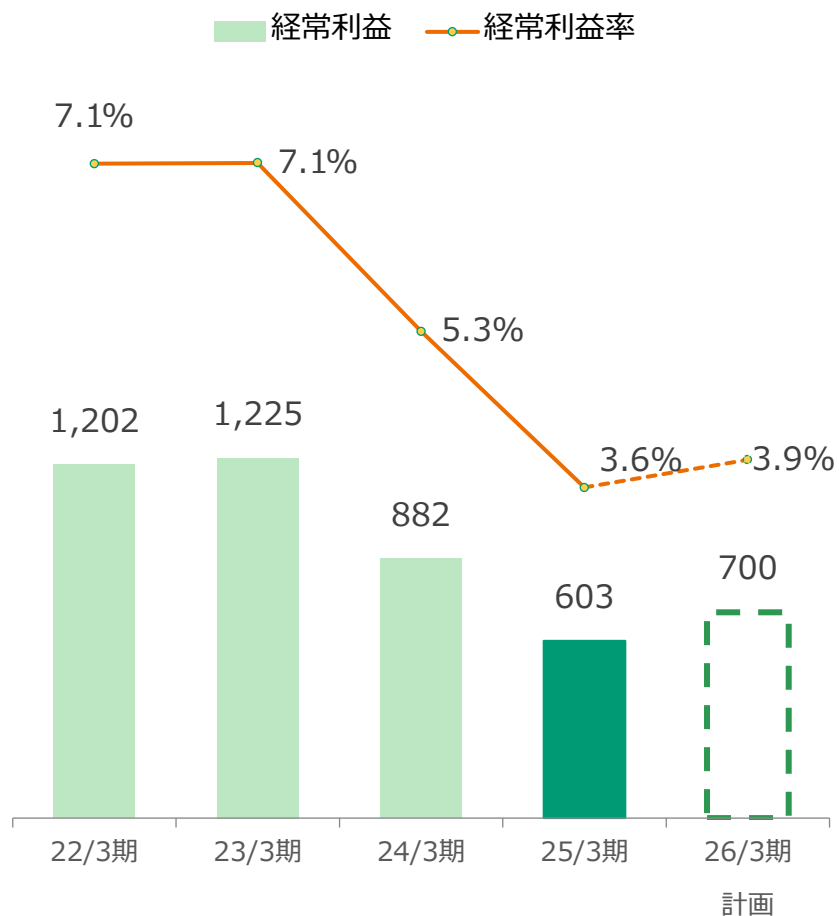
(百万円)



業績の推移 2/3

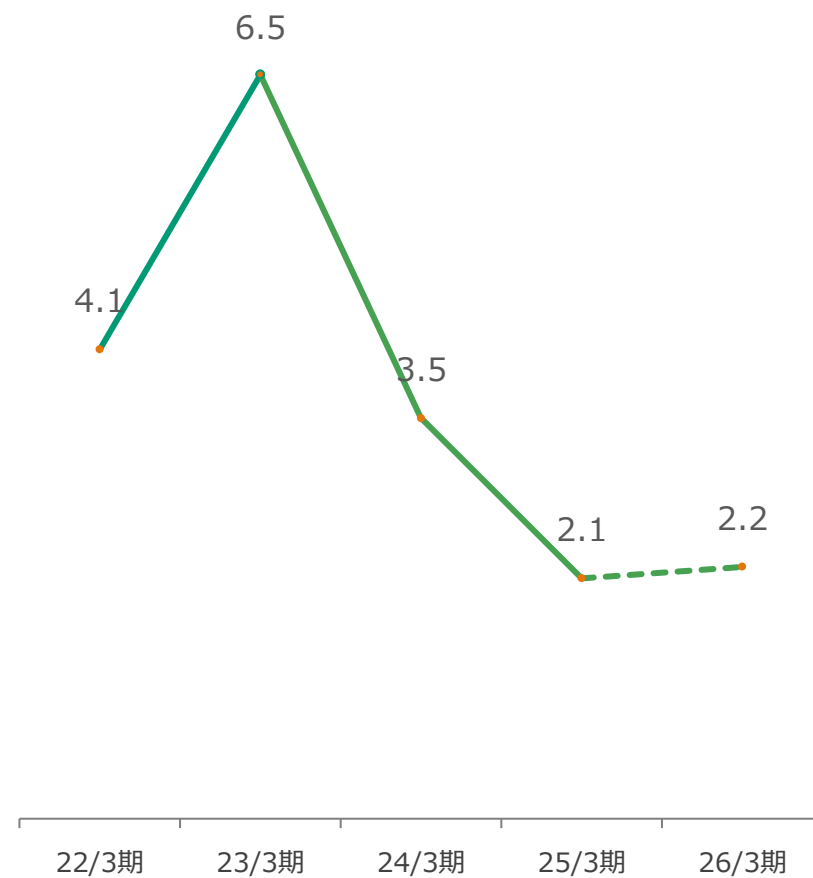
経常利益

(百万円)



ROE

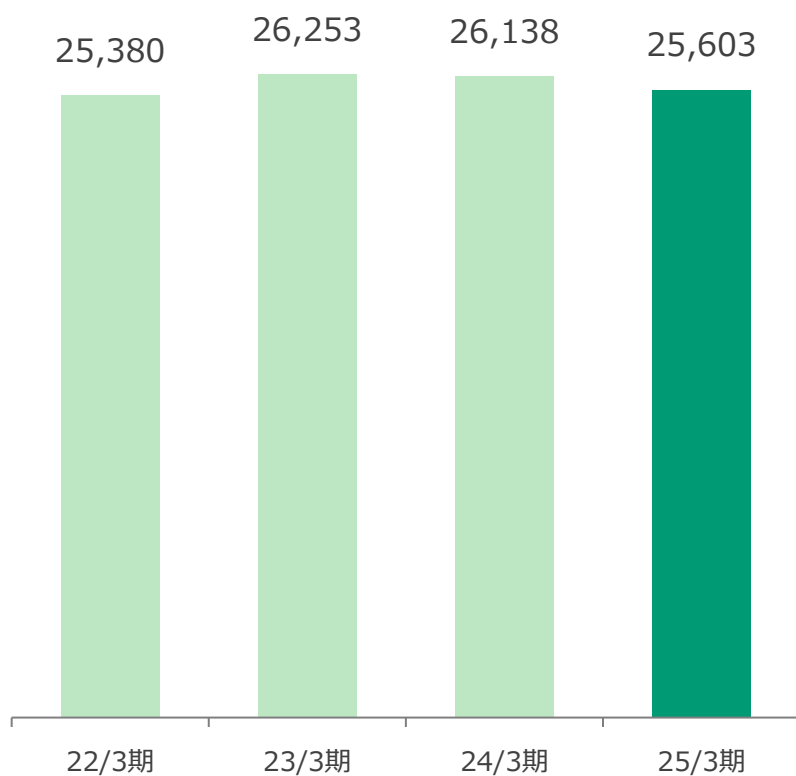
(%)



業績の推移 3/3

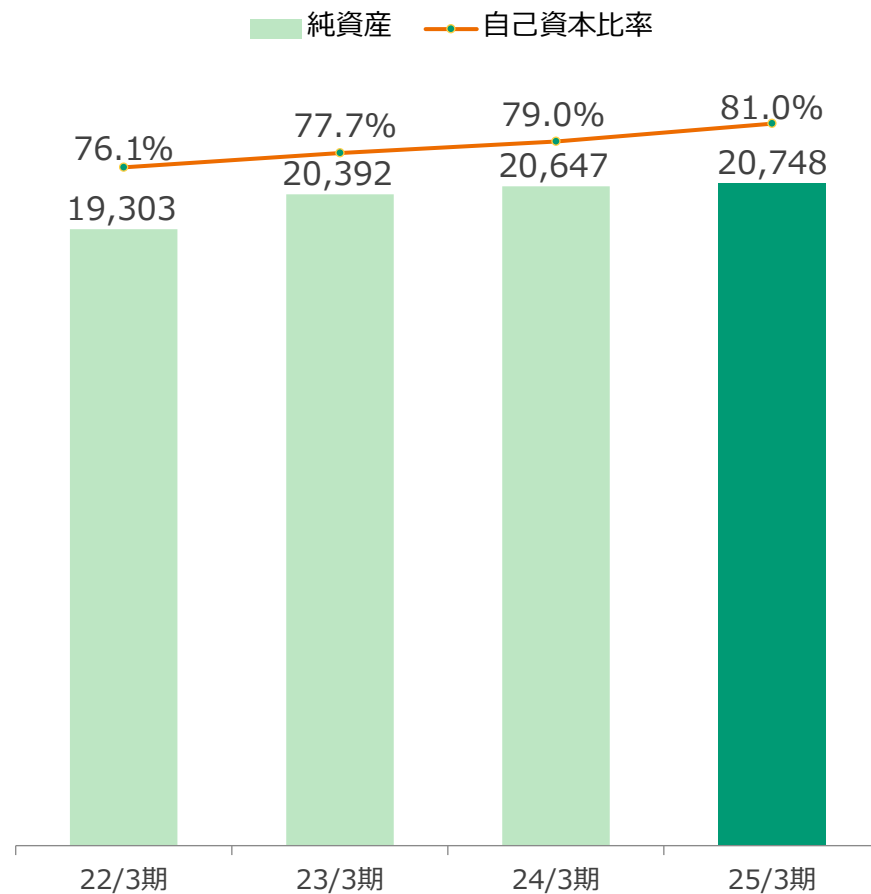
総資産

(百万円)



純資産

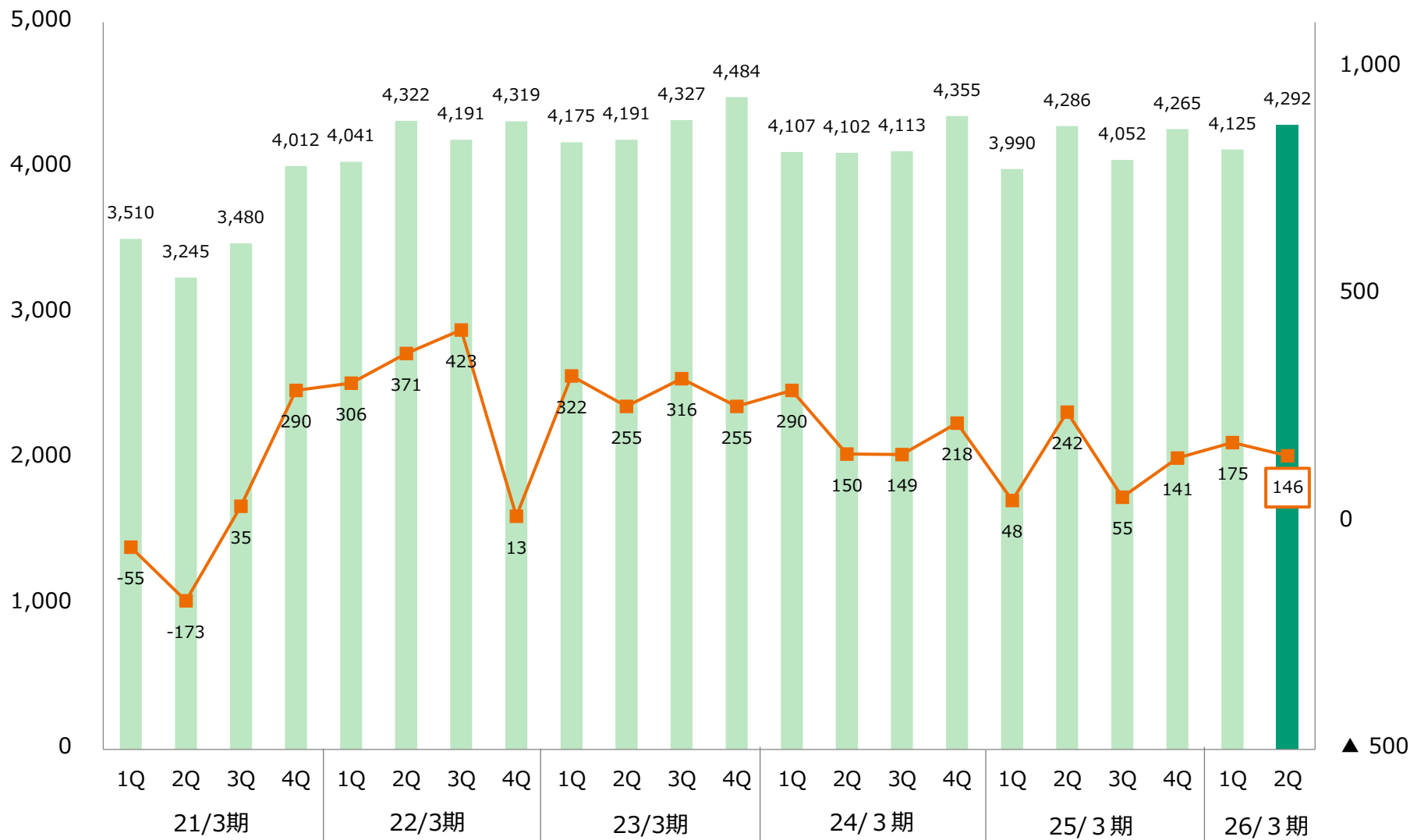
(百万円)



連結四半期業績推移

売上高 営業利益

(単位：百万円)



免責事項について

当資料は、富士ダイス株式会社の現状をご理解いただくことを目的として、作成したものです。当資料に記載した内容は、一般的に認識されている経済・社会等の情勢及び当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成しており、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更する可能性があります。

また、当資料には見込み、予測及びリスクを伴う想定に基づくものがあり、当資料に記述されている内容とは異なる結果を生ずる不確実性（市場、金利、為替の変動といった国内外の経済状況等）が含まれております。今後、新たな情報や出来事等が発生した場合、当社は本資料の更新・修正を行う義務を負うものではありません。投資に関する決定は、利用者ご自身の判断でなさるようお願いいたします。

尚、情報の掲載には細心の注意を払っておりますが、情報の誤りや改ざん、データのダウンロード等で被ったいかなる損害についても、当社は一切責任を負うものではありません。